

第 1 章 システム化の目的

1．システム化の目的

GSMP (Global Standards Management Process) 仕様に準拠した Registry-Data Pool モデルに則った GDS (Global Data Synchronisation) プロセスの検証を行うための実証実験システムの構築を目的とし、下記の手順に従い、設計・開発作業、および構築したシステムを利用した実証実験を行う。

1) 実証実験システムの設計

GDS (Global Data Synchronisation) プロセスの検証を行うための実証実験システムの設計を行う。その際、設計作業と並行して、下記の課題の整理を行う。

設計段階における GSMP 仕様の課題の整理

GSMP 仕様を紐解き、実証実験システムの設計を行っていく上で明確になる GSMP 仕様のさまざまな課題を抽出して、整理を行う。

- ・ 課題抽出の側面
 - ビジネスプロセス面
 - 商品カタログのデータ項目
 - 利用コード
 - ・ 課題の種類
 - 仕様の不明点
 - 仕様の矛盾
 - 仕様の不備
 - 単純なドキュメント記載ミス
 - 実ビジネスへの適応を考えた場合の考慮不足
- 等

また、上記のさまざまな課題に対して一つ一つ対応方向を導き出し、その対応方向に沿って、必要に応じて GSMP 仕様に対する修正を行った上で、実証実験システムの設計作業を行う。

日本独自実装

GSMP 仕様で規定されていないが、日本の商習慣で必要となる機能を整理し、方式検討および設計を行う。

2) 実証実験システムの開発

実証実験システムを開発し、インターネット上で利用可能な状態とする。

3) 実証実験システムの有効性の検証

設計、開発した実証実験システムをもとに、下記の観点から実証実験システム、ひいては GDS (Global Data Synchronisation) プロセスの有効性の検証を行う。

図表 1-1：評価内容一覧

評価軸	検証・評価内容
通信機能	EDIINT AS2 による通信機能（安全性など）の検証
Registry-Data Pool モデルのデータ同期機能	想定されたデータ項目および XML スキーマにてシステムが正常に動作することの検証
性能	性能限界等の基礎数値の取得およびサイジング試算を鑑みた検証
運用	システム運用手順の検証
安全性 （Web アクセス・セキュリティ）	Web アクセスに対する安全性の検証
信頼性（耐障害性）	通信障害の検知および再送のメカニズムの検証
拡張性	データ項目およびプロセスに対する拡張性、スケーラビリティの検証

4) 日本での GDS (Global Data Synchronisation) ネットワーク実用化に向けての整備

設計、開発を行った実証実験システムをもとに、日本における GDS (Global Data Synchronisation) ネットワーク実用化に向けての整備を実施していく。